

小中学生版 Vol.20

発行所 〒329-0101
栃木県下都賀郡野木町大字友沼5840-7
野木町社会福祉協議会
(この新聞は共同募金配分金事業で発行されています)
令和7年2月19日発行



みんなで考える福祉教育

ち い き ふ く し し ん ぶ ん

地域福祉新聞

今年の表紙
南赤塚小学校
高齢者疑似体験

野木町社会福祉協議会では、町内の小・中学校7校を「学童・生徒のボランティア活動普及事業」協力校に指定し、各校の福祉教育担当の先生の方と社会福祉協議会、ボランティアの方々を交えて年3回連絡会議を開催しています。

ここでは、令和6年度に行われた各校の福祉に関する事業、福祉教育に関わるボランティアの方々の様子などを掲載いたしました。

友沼 小学校

友沼小学校では、4年生が「総合的な学習の時間」に福祉の学習をしました。ボランティアの方々に協力いただき、アイマスク体験や車いす体験、手話・点字体験、ボッチャ体験など、貴重な体験をすることができました。体験を通して、ハンディキャップをもつ方がおかれている状況や、障がいに対する理解を深めました。人権週間は「みんなちがって みんないい」をテーマに取り組み、人権集会では自分のよさや友達のよさをたくさん見つけました。また、1年生は、野木町更生保護女性会の方とチューリップの球根植えを行いました。

チューリップの球根植え



1ねん あきもと かいり

さわると、かわがむけました。じょうずにうえられました。なにいろのはながさくか、たのしみです。

1ねん おおたか けいすけ

チューリップのきゅうこんは、はじめてみました。ともだちとうえて、たのしかったです。あかい花がさいてほしいです。

1ねん あべ りょうた

きゅうこんは、さわるとさらさらしていて、かたいです。たまねぎに、にていました。ふくりんの花がさいてほしいです。

4年福祉体験

くどう みさき
工藤 実咲

(アイマスク体験)

アイマスクを着けた時に、目の前が真っ暗で、歩く時も少し怖かったです。ペアの人がやさしい声がけて「段差があるよ。」と言ってくれたので、少し安心して歩くことができました。

すがや りお
菅谷 莉央

(車いす体験)

車いすは動かすことがとても難しくて、思うように動かせませんでした。段差や坂道は怖かったです。慣れてくると、カラーコーンをよけたり、曲がったり、うまく動かすことができました。目線がみんなと違うけれど、車いすがあれば動けることがわかりました。

さかい あつと
酒井 惇斗

(点字体験)

僕は、目が不自由な人のために「点字」があることを知りました。また、打つ方の点字と読む方の点字が違うことも初めて知りました。五十音以外の字もあるなんて、すごいと思いました。

わたなべ はるま
渡邊 悠真

(手話体験)

手話を覚えるのが難しかったです。耳の聞こえない人は、手話を覚えているのがとてもすごいと思いました。僕も手話を覚えて、困っている人がいたら手話を使って話したいと思いました。

ひらの たくみ
平野 匠海

(ボッチャ体験)

ボッチャは、車いすの人から高齢者までが楽しめ、みんなが触れ合える素晴らしいスポーツだと思いました。



人権集会



1年 かのの あやと
菅野 綾杜

もうじゅうがりゲームをしたときに、ふわふわしたことはたくさんつかえました。いろんな人と話をして楽しくすごせてよかったです。これからも友達にやさしくしたいです。

2年 てらさわ ことこ
寺澤 香都子

他のクラスの発表を聞いて、友沼小の全員がふわふわ言葉を使えるようになるのかなと思いました。いろんな学年の好きなものや得意なことを知ることができてよかったです。好きなものや得意なことはみんなちがうということがよく分かりました。

3年 さいとう きくら
齋藤 咲良

みんなのちがっていいところをもっとさがしてみたいと思いました。これからも友達と仲良くするために、チクチク言葉を使わずに、ふわふわ言葉をたくさん使っていきたいです。

4年 つかた あやと
塚田 紘綴

グループになってみんなとなかよく話したり、遊んだりできてよかったです。あまり関わったことのない子とも話せて友達になれました。これからも、友達に優しくして困っていたら声を掛けて生活していきたいと思います。

5年 あおき ひな
青木 陽菜

今回のテーマ「みんなちがってみんないい」を意識して参加することができました。みんな好きな物や得意なことが違うということを改めて感じました。あまり関わりがなくても、初めて会ったり話したりする人とも個性を大切に接していきたいと思います。

6年 ほしもと ほんの
橋本 穂乃

人権集会を通して、他の学年と自己紹介をして仲を深めることができました。校長先生のお話の中にあつた「人権は幸せに生きていくためのものになるもの」の言葉を忘れないようにしたいです。これからも、人権について学んだことを大切に生活していきたいと思います。

野木小学校では、4年生の総合的な学習の時間に「福祉」について学習しています。手話体験、点字体験、ハンディキャップ体験を通して「ひとにやさしい」とはどのようなことなのか、自分にできることはどんなことかなど、考えを深めることができました。

福祉体験

福祉について



・最初は福祉って何だろうと思っていました。話を聞いて福祉って大切ななと思いました。
青木 陽依里

・福祉とは「普段の暮らしを幸せにすること」で、みんなのためにあるということが分かりました。
伊藤 祐士

・「ふだんの暮らしをしあわせに」が福祉ということが分かりました。また、体の不自由な人が多いことを知ることができました。
伊藤 翔一



手話体験

・手話で自分の名前やあいさつが分かって嬉しかったです。数字の手話もできました。
石川 颯大

・最初は指の使い方がむずかしかったけど、手話で自己紹介をすることができました。
西林 璃奈

・手話で人数や自分の名前を表現できました。今後、耳の不自由な人がいたら手話で助けたいです。
松本 伶奈



点字体験

・点字は、六個の点を使って読んだり、書いたりできるので覚えたら分かりやすいと思いました。
関澤 直樹

・目が見えない人は、点字を使って会話していることや点字を打つ道具があることについて分かりました。
大石 潤人

・点字を打つのがむずかしかったです。点字で自己紹介の名刺を作ることができました。
田部井 紘一

・点字で会話ができる事におどろきました。点字を打つ道具について知ることができました。
秋山 壮太

アイマスク体験



・体験を通して、目の見えない人の大変さを知り、いろいろなことを学べました。
根岸 ひかり

・友達がアイマスクをしているときにサポートすることができました。困っている人がいたら助けたいです。
関根 和真

・目が見える時に点字ブロックは使えないが、目が見えない時はありがたい物だと分かりました。
佐久間 陽彩

・友達に教えるときは状況を細かく伝えて、体験するときは、白杖を細かく動かしました。
黒田 朱莉



車いす体験

・段差を上がるときに体重をかけないと上がれなくて苦戦しました。今後の生活で、困っている人を見かけたらこのことを活かしていきたいです。
古川 權斗

・友達が乗っている時にびっくりしないように、声かけをしてサポートすることができました。
工藤 結月

・押すときに段差でガタンってならないようにやるのが難しかったです。車いすに乗っているときの目線は、私が座った時の少し高いくらいで全然なれなかったです。
篠崎 美朱



こもれびの舎の訪問を通して

・こもれびの舎に行って色々なことを知ることができました。発表も上手くできてうれしかったです。
佐山 柚奈

・手話付きの「ありがとうの花」の合唱、「もののけ姫」のリコーダー演奏、ハッピーカードのプレゼントができました。
伊藤 優那

・施設見学だけではなく、「ありがとうの花」の歌と「もののけ姫」のリコーダー演奏、メッセージカードのプレゼントができてうれしかったです。
印出井 美希

佐川野小では、今年度、人権集会として聴覚障害をもつ松井智恵先生をお迎えして全校児童と保護者、教職員でお話を伺いました。落合様による同時手話通訳をしていただきながらの講話で、参加者全員が多くの学びを得ることができました。

佐川野小 親子学び教室・人権講話

「聞こえないってどんなこと」

講師 小山市聴覚障害者協会 松井 智恵 様
(手話通訳 落合 直美 様)

児童・保護者の振り返り より

ぼくは、おかあさんと手でおはなしをしてみたいとおもいました。まついさんとおちあいさんがしゅわでおはなししているのがすごかったです。こんどまたおしえてもらいたいです。

1年 なかじま こうし

わたしは、耳が聞こえないのはふべんだな、と思いました。これから、いろいろな手話を知って、耳の聞こえない人のやくに立てたらいいな、と思いました。

2年 こぼり かれん



わたしは、ろう学校があることは知っていましたが、小さい時から勉強できる場所や、廊下に信号があることなどを初めて知りました。生まれてからずっと耳が聞こえないなんて大変だと思いました。だから、これから手話の勉強をして、災害時などにも、困っている人を助けられるようになりたいです。

3年 ^{かきめ}柿沼 ^{ひかり}光里



ビデオ動画で、耳の聞こえない人は大変なことがあっても、色々な工夫をして生活していることを知りました。インターホンに音のかわりに光でお知らせしてくれることに驚きました。これから、手話や指文字を少しずつ覚えていきたいと思います。

4年 ^{たての}館野 ^{ゆり}友里



松井さんは、耳が不自由ですが落合さんが手話通訳をして私たちに伝えてくださったのが、すごいなと思いました。また、動画で聴覚障害をもつ方たちの生活がよく分かりました。大変そうだなと思いました。松井さんはそんなことはないとおっしゃっていたので、生活の工夫や慣れもあるのかなと思いました。

5年 ^{たての}館野 ^{ひな}陽菜

ぼくの知り合いに耳の聞こえない方がいるので、教わった手話を使って話をしてみたいです。耳が聞こえない方の生活の動画を見て、生活の大変さや便利にするためのいろいろな工夫を知りました。ありがとうございました。

6年 ^{すずき}鈴木 ^{そら}蒼良

聴覚障害の方のお話が聞ける機会はなかなかないので、とても勉強になりました。障害があるからこそ見える世界や気付きもあると感じました。障害があっても共に生きることの大切さを改めて考えさせられました。私も、周りの人をもっと理解し、手助けできることをしていきたいと思います。(1年保護者)

初めて聴覚障害の方の話を聞いて、自分達が会話をして生活できることが当たり前ではないと、考えさせられました。手話で会話ができる人を増やしていけば、耳の不自由な方も今以上に楽しく生活が送れるだろうと思いました。私も手話を覚えたいと思いました。(3年保護者)

お礼に全校児童で「ありがとうの花」を手話つきでプレゼントしました。



南赤塚小学校では、4年生の総合的な学習の時間「みんなの町づくり」の学習として、本やパソコン、インタビューなどを通して、福祉に関する調べ学習をしたり、認知症サポーター養成講座、車いす、アイマスク、高齢者疑似体験など、バリアフリー体験に取り組んだりしています。他にも、人権週間を中心に、全学年で福祉・人権に関する学習に取り組んでいます。

人権集会



今年度の人権集会では、「聴覚障がい者について知ることを通して、互いの個性を尊重し合いながら共生しようとする態度を育てる。」という目的で、手話サークル「虹の会」の方を講師に招き、「学校で聴覚障がい者が困ることって？」の動画を視聴したり、聴覚障がい者についてのお話を聴いたりしました。講師の方の真似をして手話を学び、手話についても理解を深めました。

子どもたちは、聴覚障がい者についての話を聴いたり動画を視聴したりしたことを通して、思ったことや感じたことをワークシートに書き込みました。互いを尊重し合うことや自分にできることは何かについて真剣に考えていました。



1年 羽持 彰人

みみがきこえない人がいたときは、おしえてもらったしゅわをじぶんからしてみたいです。みみがきこえない人がこまっていたら、かたをやさしくたいて、たすけたりおしえたりしたいとおもいました。

2年 田村 颯大

今まで手話は、「ありがとう」しか知らなかったけれど、「こんにちは」や「はじめまして」を知ることができてよかったです。ろう者の方の気持ちを知って、大へんな思いをする時もあるんだと思いました。ろう者の方に会ってこまっていたら、助けたいです。

3年 力石 結衣

耳が聞こえない人は、聞こえる人と見た目は変わらないから大変だと思いました。まわりをよく見ながら生活しないといけないし、車のクラクションが聞こえないと事故にあってしまうかもしれません。耳が聞こえないということをよく考えると、とても大変だということが分かりました。

4年 宮田 楓花

総合の調べ学習で耳の不自由な人を調べましたが、もっと多くのことを知ることができました。耳の不自由な人は見た目では判断しづらいので、人を見た目で判断しないように気を付けたいと思いました。少し手話を覚えることができたので、家族に教えたいです。

5年 中村 絢音

耳の聞こえない方たちは、周りから気付かれにくいということを知りました。私たちにできることは、その方の様子をよく見て、力になれることを探すことだと思います。困っていたらゆっくり話しかけたり、メモをとって渡してあげたりすることなら、今の私たちにできます。人によって、コミュニケーションのとり方は違うけれど、助け合うことで心がつながるということはみんな同じだと思います。

6年 青木 慈雨

お話を聞いて気付いたことは、耳が聞こえない人たちのために「私にもできることがある」ということです。実際に今回手話をしてみて、手話は耳の聞こえない人と私たちをつなげられる「言葉」なんだと思いました。もしも、耳が聞こえない人や目が見えない人、外国の人たちに会ったら今日学んだことを思い出して、身ぶり手ぶりでコミュニケーションをとりたいなと思いました。



認知症サポーター養成講座

4年 竹田 珠莉

私は、認知症サポーター養成講座を受けた後、認知症について友達と一緒にくわしく調べて、自分たちでもパンフレットを作りました。これから、認知症の方に会ったら、「どうしたのですか。」と声をかけたり、やさしく、目線を合わせてゆっくり話しかけたいと思います。

総合的な学習の時間

高齢者疑似体験



4年 増田 杏菜

高齢者疑似体験で、重いものを中に入れて歩いたときに、高齢者の人がとても大変な思いで生活しているのが分かりました。

4年 堀越 樹

視界が狭くなる眼鏡で周りが見えなかったし、重りをつけた手は動かすのもつらかったです。普段の生活も、苦労しているのだと分かりました。福祉の勉強をたくさんして、高齢者の方に寄り添う気持ちをもっていたいと思いました。



車いす体験

4年 廣瀬 華

車いすを押したときに、曲がり角をうまく曲がりきることができませんでした。足の不自由な人はこんなにも大変なことを毎日やっていると考えたら、車いすに乗っている人を必ず助けたいと思いました。

4年 津田 雅媛

車いすに乗って、友達におしてもらった体験をしました。坂道を上ったり下ったりするとき、こわかったです。もし、自分で車いすをおすことがあったら、相手の気持ちをよく考えて、気を付けておしてあげたいと思いました。



アイマスク体験

4年 乙津 京加

実際にやってみると、「今どこ歩いているの？」や「怖い」という気持ちでした。しかし、サポートしてくれる人がしっかり教えてくれたので、最後までやり切れました。サポートする人が大切だということが分かった体験でした。

4年 中山 稜久

最初はとてもこわかったけれど、案内の人が「かいだんがあるよ。」とか「でこぼこしているから気をつけてね。」と声をかけてくれて、とても安心しました。もし、目の不自由な人がいたら、やさしく声をかけて、助けてあげたいです。

4年 長 美志

「廊下に置いてある物や壁にぶつからないかな。」と思って怖かったけれど、ペアの友達が「右に曲がるよ。」「階段あと〇段だよ。」と言ってくれたので、安心して進めました。目の不自由な人に会ったら、「お先にどうぞ。」と声をかけて譲りたいと思います。

新橋小学校では、地域の学校支援ボランティアの方々に協力を得て、体験学習を充実させています。4年生の総合的な学習の時間で、福祉について学習し、「心のバリアフリー」について考えています。ハンディキャップ体験では、野木町社会福祉協議会、手話サークル「虹の会」、点友会「のぎ」の皆さんやボランティアの方に来校していただき、お話を聞いたり、ふれ合ったり、実際に体験したりしながら、たくさんのことを学ぶことができました。

★ 総合『心のバリアフリー』 ★

★車椅子体験★

車いす体験では、段差や坂を車いすで上り下りしたり、自分で操作したりしました。体験からバリアフリーや介助について考えました。

(児童の感想)

- 坂を上るときや坂を下るときが特に難しかったです。
- 押す人と乗っている人が協力して、声をかけながら動かしていることが分かりました。
- 押すときに声をかけると乗っている人も安心できると思いました。



★手話・点字体験★



手話・点字体験では、ボランティアの方から、手話や点字の打ち方などを学びました。

(児童の感想)

- 手話のことをもっと調べたいと思いました。
- トイレや風呂などの身近な場所に点字が使われていることを知って驚きました。点字を探してみたいです。
- 家族にも点字を教えたいです。点字をもっと打てるようになりたいです。

★新橋小学校のみんなに福祉を広げよう★

これまでの総合で学んだ福祉について、「新橋小のみんなに福祉を広げたい」という児童の思いから4年生全体で12のグループを作り、実践に向けて準備を進めてきました。「みんなに優しく、誰でも笑顔の新橋小」を目標に福祉を広げる活動しています。

- ① わくわくポップづくり
- ② 3年生マスター点字教室
- ③ みんなが分かりやすい地図作成
- ④ 笑顔の新橋交流会
- ⑤ みんなにこにこふりがな
- ⑥ 新橋小全員が分かる掲示物
- ⑦ 広がれ!!手話の大切さ 読み聞かせ
- ⑧ みんなに伝わる笑顔いっぱいなポスター
- ⑨ みんなのためのマークづくり
- ⑩ ルールなるほど新橋ポスター
- ⑪ みんなで楽しむ手話
- ⑫ 広がれ パラスポーツ



わくわくポップづくり

福祉に関する本を紹介するポップを作っています。ポップを読んで、福祉に興味をもってもらいたいです。



広がれ!!手話の大切さ 読み聞かせ

読み聞かせを通して手話に興味をもってもらい、手話に親しみを感じてほしいです。

野木 中学校

野木中学校では、福祉委員会主催の下、アルミ缶・古紙回収を実施しています。2か月に1度の実施ですが、毎回多くの生徒が協力してくれており、地域の方々からも回収させていただくことができました。また募金活動では、目的や趣旨を各学年・クラスで伝えて積極的な呼びかけを行いました。年間を通じて、委員会のメンバーそれぞれが自分たちで考え、助け合いながら福祉活動に向き合えたと思います。今後もいろいろな活動に取り組むことで、野木中全体の福祉の心を育てていきたいです。

人権集会

3年 ^{ほうしと あやな} 寶示戸 彩名

野木中学校では、12月の人権週間で性的マイノリティーと人権についての講話が開かれました。講話では、人権擁護委員の方のお話と性的マイノリティーを題材としたDVDを鑑賞しました。私たちは周りの人がLGBTQ+を理解し誰もが生きやすい社会を作っていくことが重要であると学びました。人口の約3～5%が性的マイノリティーであることが分かっています。自分の心や身体のことについて誰にも相談できず、1人で苦しんでいる方がいるかもしれません。彼らと共に生きていくために、LGBTQ+について皆が知識を深め、多様な人々がいることが必要だと思いました。今回の講話を通して学んだことを忘れずに、私たちにできることを考えていきたいと思います。

募金活動

2年 ^{さかい いっしゅう} 酒井 一宗

野木中学校では、毎年、社会に貢献するために募金活動を実施しています。募金活動により集まったお金は、自然を守ったり緑を増やしたり、貧困で苦しんでいる人たちのために使われます。今年度もたくさんの生徒や先生方のご協力によって、たくさんの募金が集まりました。募金がたくさん集まるほど、「自分たちの思いが困っている人たちの助けとなる」という優しい気持ちや、「募金を呼び掛けて良かった」という満足感を得られます。これからも、野木中学校では募金活動が行われますが、たくさんの人達の気持ちが社会や自然を守ることに立ち、幸せのバトンを未来に繋ぐことができると思います。野木中のあたたかさを、豊かな世界のために広めていきたいです。

アルミ缶 古紙回収

3年 ^{いがらし せんのすけ} 五十嵐 仙之助

野木中学校では、福祉委員会が2か月に1回、アルミ缶古紙回収を実施しています。今年度は、ペットボトルキャップやベルマークの回収は行っていませんが、学校全体の達成率を昨年度より少し向上させることができました。生徒や先生方のたくさんの協力によって、よりよい活動となりました。これらの活動を通して、人とのコミュニケーションの大切さや、視野を広くもつこと、周りの人への感謝の気持ちなどを学べました。今後も生徒一人ひとりの福祉に対する意識を高め、思いやり溢れる学校になるように貢献していきます。



チューリップの 球根植え

3年 ^{わたなべ かずま} 渡邊 和馬

私たち福祉委員会では今年、チューリップの球根を学校の敷地内に植えました。枯草や不要な落ち葉を取り除き、みんなで球根を植えるための穴を掘って形を整えます。寒い時期は闇雲に水を与えても花が育たないため、暖かくなってから本格的に水やりをしていくことになりました。「人権の花」のチューリップを育てることで、人権を尊重し校内の雰囲気良くしていけるようにしたいです。



野木第二 中学校

野木二中では、今年度も輝光祭に向けて「ビッグアート」を制作・展示しました。テーマは、野木二中創立35周年記念です。他にも、野木町健康福祉課の皆様をお招きし、「認知症サポーター養成講座」を実施しました。また、9/7(土)に手話サークル“虹の会”や“野和の会”から講師の方々をお招きし、「手話講座」を実施しました。

今後も様々な活動を通して社会福祉について考え、地域と関わっていきたいと思います。

ビッグアート

3年 おくら ひまり
小倉 向日葵

今年は野木二中創立 35 周年という特別な年です。ビッグアートも特別なものにしたいと思い、生徒からアイデアを募集しました。デザインは、校舎・ひまわり・ひまわライオン（生徒会キャラクター）に決めました。今年は多くの色を使うため、アルミ缶が不足しており大変な作業になりました。そんな中でも良い作品にしたいと奮闘するボランティアの生徒、缶が不足していると知り集めてくれた生徒、多くの人の協力があり無事に完成させることができました。来年もボランティアの生徒を中心に、私たちの学校の伝統を守ってほしいです。地域の皆さん、ビッグアートは校舎の東側に飾ってあります。機会があれば、ぜひご覧ください！



2年 せき まなみ
関 真奈美

認知症サポーター養成講座

私は、この講座で認知症について知りました。認知症とは、出来事の全体を忘れてしまったり、考える力が弱くなったり、身近な人のことを忘れてしまったりする病気のことです。認知症への対応の心得、3つの「ない」は、1. 驚かせない 2. 急がせない 3. 自尊心を傷つけないということでした。また、具体的な対応として、①まずは見守る②余裕を持って対応する③声を掛けるときは1人で④後ろから声を掛けない⑤優しい口調で⑥穏やかに、はっきりとした話し方で⑦相手の言葉に耳を傾け、ゆっくり対応することを学びました。この講座を受けて、家族や友達との時間を大切にしようと思う気持ちが強くなりました。

2年 とまつり みゆ
戸祭 史悠

私には、高齢の祖母がいます。生活すること自体とても大変な状態です。認知症サポーター養成講座では、高齢者への対応について学習しました。次に祖母に会ったら、講座で学んだことを生かして話してみようと思いました。うまくできないことは、「大丈夫だよ。」と優しく伝えることをしっかり覚えておきたいです。



総合体験学習 手話講座

1年 まきの るな
牧野 琉花

私たちは総合体験学習で手話を学びました。学年や名前、家族構成の手話を教えていただき、自己紹介ができるようになりました。講師の方々には、隣で目線を合わせながら教えて下さいました。普段から講座を開いたり、聴覚障がい者の方と接したりする機会があるからこそ自然とできるのだと感じました。手話は、重要なコミュニケーション手段の一つですが、身の周りに手話ができる人はなかなかいません。つまり、手話を知っている人が少ないということです。そのために私たちが手話を学んだり広めたりすることは重要だと感じました。皆さんも、手話の動画などを見て真似してみたいと思います。それが、人権尊重につながれば嬉しいです。



手話サークル「野和の会」

田中 久恵

今年の11月15日～26日に日本で開催される『東京2025デフリンピック』をみんなで応援しませんか？

「デフ」とは「耳が聞こえない」という意味です。「デフリンピック」は「聞こえない・聞こえにくい人のオリンピック」として、1924年パリで第1回大会が開催されました。今回は、日本での初開催であるとともに、第1回大会からちょうど100周年となるメモリアルな大会で、東京をメイン会場として開催されます。

参加国は70～80か国、約3,000人の選手と約3,000人のスタッフが参加します。国際手話のほか、スタートランプや旗などを使った視覚による情報保障が特徴です。

私たち手話サークルのメンバーは、「デフリンピック」が日本で開催されることを楽しみにして来ました。外国の手話が見られるかも知れません。皆さんも興味を持って見てください。



手話サークル「野和の会」

活動日：毎週月曜日(午前10時～正午)
場 所：ホープ館(町老人福祉センター)
年会費：1,000円

手話サークル「虹の会」

活動日：毎週土曜日(午前10時～正午)
場 所：ホープ館(町老人福祉センター)
年会費：1,000円

点友会「のぎ」

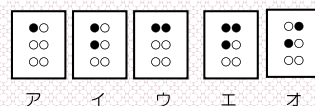
中野 啓子



点友会「のぎ」

活動日：第2・4火曜日
(午前10時～正午)
場 所：ホープ館
(町老人福祉センター)
年会費：500円

黒く塗られている点は、読む点字のアイウエオです。タテ3点、ヨコ2点の6つの点の組合わせから、成り立っています。この点を組み合わせることで五十音や文章記号を表していきます。



今年度、町内の3つの小学校での福祉体験や夏休みのボランティアスクールにて点字学習の支援を行いました。最初、点字器の扱いに戸惑いますが、すぐ慣れて名刺を打ったり、文章や数字を打ってくれた生徒さんもいます。

「大変だったけど、点字を打つのが楽しかった。」「視覚障がい者の人は、指で点字を読むのがすごいと思った。」と感想が寄せられました。点字を通して少しでも福祉に関心をもってもらうことはとても大切だし嬉しく思います。私達も微力ながらお手伝いを続けられるように学んでいこうと思います。

朗読の会「のぎく」

山崎 明美

私たちは目の不自由な方のお役に立ちたいという思いから活動を始め、今年で31年目を迎えます。

主な活動内容は町からの「広報」や「お知らせ」などを目で読むことが難しい方のために、私達が読む事で耳から聴くという形のCDに録音してお届けしています。

また、作成したCDは公共機関の窓口(役場、図書館、ホープ館など)に置いてありますので、お気軽にご利用頂けたら、うれしいです。

その他、朗読の会の開催や各種イベントへの参加なども行っています。これらの活動を通して様々なことを体験し自分たちの学び、幸せにつながっています。

あなたが声を出して読むことで、喜んでくれる人がたくさんいます。ぜひ一緒に活動してみませんか。



朗読の会「のぎく」

活動日：第1・3水曜日、第4金曜日
(午後1時30分～3時30分)
(第1水曜日は午前9時30分～11時30分)
場 所：ホープ館(町老人福祉センター)、図書館 他
年会費：500円

「赤い羽根共同募金について」 ～じぶんの町を良くするしくみ～

野木町社会福祉協議会では、各校の福祉教育担当の先生方とボランティアの方々と交えて福祉セミナーを開催しました。

今年度は、栃木県共同募金会 粕谷 亜紀氏よりお話をいただきました。



はじめに、「学校(子ども)と地域がもっとつながるために、もっとこうなると良いな、〇〇があると良いな」と思っていることをおひとりずつ発表していただきました。

それぞれ地域や子どもに関する想いをお話され、共通していたのは「子どもと地域が交流できる場(又は場所)」が増えるといいなということでした。

粕谷氏は、「そんな想いや願いを実現させるツールの1つが「赤い羽根共同募金」。この募金をキッカケに、地域の活動、人、しくみを子どもたちにもぜひ知ってほしい」と話されました。



そこで、野木町支会担当者より、実際の野木町での募金の使い道や、赤い羽根共同募金を使って応援してくれている企業やお店の紹介をさせていただきました。



参加者の皆様からは「あまり知らなかった使い道を知ることができてよかった」「私たちボランティアにも支援されていることに感謝」「子どもたちにも、町のために動いてくれている方がいることを知らせたい」などの声がありました。

じぶんの町の「ふ」だんの「く」らしを「し」あわせにしたい、そんな想いがこめられた募金を、これからも有効に地域で循環させていきます。

地域福祉新聞とは?

野木町社会福祉協議会の「地域福祉新聞」の取り組みは、平成 17 年度に栃木県社会福祉協議会から指定を受け始まった事業をきっかけに始まりました。

当時の協力校は野木中学校区の小中学校 4 校でしたが、平成 20 年度からは町内の小中学校 7 校の協力を得て、地域福祉新聞を発行しています。

地域福祉新聞は、各学校ごとに特色のある地域社会と連携した事業の取り組みや福祉について学んだ内容、児童・生徒さんたちの感想を記事として掲載しています。子どもたちがさまざまな体験をとおして得た素直な感想、発見を読んでいただき、今まで福祉にあまり関心がなかった方々にも福祉について考えるきっかけになっていただければと思っています。

『みんなで考える福祉教育』地域福祉新聞』のタイトルにもあるように、新聞を読んで子どもたちの学びを見守りつつ、どうしたら私たちのふだんの暮らしをよくしていくことが出来るかを、身近な人と一緒に考えてみてください。